

課程博士審査報告書

申請学位： 博士（国際開発）
学位申請者： Bagus Pambudi（バグス パムブディ）
所属： 拓殖大学大学院国際協力学研究科博士後期課程国際開発専攻（在学中）
6D704
課程修了予定（2019年7月31日）

論文題目： A Study on the Implementation of Community Driven Development Program
in Three Villages of Indonesia

和文題目： インドネシアの3農村での地域住民主導型プログラムの実施に関する研究

審査委員会： 主査 国際学部 教授 吉野文雄
副査 国際協力学研究科 客員教授 柳原 透
副査 国際協力学研究科 客員教授 藤本耕士
副査 国際学部 教授 佐原隆幸

I 研究の趣旨

1. 研究の背景と目的

1980年代以降、発展途上国での地域開発のアプローチとして、旧来の主流であった上意下達（top-down）型の限界が広く認められるようになり、それに代わるアプローチの模索試行がさまざまになされた。そのような状況の中で、世界銀行（世銀）は1990年代半ばに、地域住民が中心となって地域開発の意思決定と実施を進めるアプローチの採用を提唱し、それを体現する「地域住民主導型プログラム（Community-Driven Development（CDD）programs）」への支援を強力に打ち出した。インドネシアはそのようなプログラムを世銀の支援を受け早期にそして大規模に実施した事例として、実務界からも学界からも大きな注目を受けてきた。KDP/PNPM-Rural と略称される一連のプログラムは、世界銀行により顕著な成功例と認められ、他国へのモデルとして称揚されてきた。しかし、村レベルの計画・実施の実際については政府・世銀の報告書でも既存の研究成果においても十分な跡付けと評価はなされていない。本研究は、実態理解におけるそのような空白を埋めることを目的として計画された。

2. 研究の企画と遂行

既存文献の成果を踏まえて研究課題が同定され、課題に応えるために新たに求められる情報が特定され、中央ジャワの3農村での実地調査の設計がなされた。

3つの大きな問いが立てられた。その第1は、KDP/PNPM-Ruralプログラムの設計にCDDアプローチがどのように取り入れられたかについての確認である。第2は、KDP/PNPM Ruralプログラムの設計と実施との間の不整合の有無についての検証である。第3は、上記の不整合を生んだ諸要因についての検証と考察である。

これらの問いは、それぞれ3から4の中レベルの問いに分解され、それらはさらにそれぞれ2から4の小レベルの問いに分解された。文献の精読ないしは現地調査で得られた情報を基に小レベルの問いへの答えが求められ、それらを総合して中レベルの問いへの答えが得られ、さらにそれらを総合して3つの大きな問いへの答えが打ち出された。

3. 研究の成果と意義

本研究では、KDP/PNPM-Ruralプログラムが地域でのインフラストラクチャーの整備とマイクロクレジットの提供において実績を上げていることが、統計上では確認された。しかし同時に、3農村での実地調査からは、次の2点が明らかとなった。①CDDアプローチを体現するとされるKDP/PNPM-Ruralプログラムの理念は伝えられず、それまでのプロジェクトとの手続きの違いのみが意識されている。②プロジェクトの生成と選択にかかわる意思決定過程において、「住民主導」を実現するための手続きが形骸化され、村長など地方有力者による決定の下で利益誘導がなされた。KDP/PNPM-Ruralプログラムの設計と実施との間の不整合についてのこの事実確認は、既存文献にはない独自の貢献とみなしうる。

上記の不整合についての考察は、「地方有力者支配と対抗力」という一般論での論考を踏まえて展開され、中央ジャワでの地方政治の各層での住民の均質度/異質度とそれぞれの層で働く力関係が確認・検討され、その文脈での外部者（ファシリテーター）の役割における設計と実際の間不整合の確認と検討された。ここでの考察は、実際に即した理解の提示として重要であるとともに、上記の一般論への貢献をもなしている。

これらの事実確認と考察を踏まえ、CDDプログラムにおいて住民の利益をよりよく達成すべく「住民主導」を実現するために、制度設計改革案が提示される。改革案は、これまで正式に位置づけられていなかった近隣集団のプロジェクト生成段階での役割の確立、そしてその実効を確保するためのファシリテーターの働きの強化、を中心とする。この提案がどこまでどのように実行可能であるかの検討は十分ではないが、少なくとも叩き台としての意義は認めることができる。

II 論文の構成と概要

以下まず論文の章別構成を示し、次いで概要を記す。

Chapter 1. Introduction
Background of Study
Research Gap
Research Objectives
Research Questions
Research Methodology
Method of Data Collection and Analysis
Research Design
Significance of the Study
Structure of Dissertation

Chapter 2. Literature Review
Previous Studies
Key Concepts .
Concept of Development
Concept of Rural Development .
Concept of Community Driven Development .
Participation, Empowerment and Facilitation.
Elite Capture and Patron-Client Relationship
Summary and Theoretical Framework .

Chapter 3. General Description of the Program and Study Areas
Program Design
Background of KDP/PNPM Rural Program.
Objectives of the Program
Steps, Procedures, and Actors of the Program.
Implemented Projects.
Organizational Structure of the Program.
Characteristics of Study Areas --- Topography and Demography.
Socioeconomic Conditions
Structure of Village Government

Chapter 4. Community Driven Development in Indonesia.
Introduction.
Adoption of Community-Driven Development Approach into CDD Program
Historical Standpoint of CDD Programs in Indonesia
IDT / P3DT / KDP.
Innovation and Continuity of the PNPM Rural.
Similarities and Differences between the KDP and Two CBD Programs .
Similarities and Differences between KDP and PNPM Rural .
Impact Evaluation of the KDP/PNPM Rural .
Economic Impact of the KDP/PNPM Rural
The KDP/PNPM Impact on Good Governance in the Village
Conclusion and Policy Implication.

Chapter 5. Understanding “Empowerment” in the Context of CDD Program in Indonesia .
Introduction.

The Concept of “Empowerment” in the Development Policy of Indonesia.
Application of “Empowerment” in the Development Policy of Indonesia.
Discussion
Conclusion and Policy Implication

Chapter 6. Implementation of KDP/PNPM Rural Program

Introduction
Planning Stage (Decision Making Process)
Neighborhood Meeting
Hamlet Meeting/Deliberation
Woman and the Poor Involvement in Decision-Making Process.
Village Planning Deliberation.
Sub-District Deliberation
Implementation of the Projects
Construction of Infrastructure Projects.
Fund Disbursement of Micro-credit Activities.
Project Maintenance
Conclusion and Policy Implication

Chapter 7. Villagers’ Understanding of the KDP/PNPM Rural in the Villages

Introduction.
Information/Knowledge about the Program
Participation of Villagers in the Program
Villagers’ Opinion about the Program
Conclusion and Policy Implication.

Chapter 8. Contexts and Forms of Elite Capture in the Program

Introduction.
Power Relations at Village Level
Elite and Non-Elite.
Patron-Client Relationships
Mitigating Elite Capture in the KDP/PNPM Rural
Project Cycle of the KDP/PNPM Rural
Key Features of the Program to Mitigate Elite Capture.
Contexts and Forms of Elite Capture in the Program
Elite Domination in the Decision-Making Processes.
Misuse of Funds in Implementation Stage
Discussion.
Conclusion and Policy Implication.

Chapter 9. The Role of Facilitators in the Program

Introduction
Organizational Structure of Facilitators in the Program
Duties of Consultants at National, Regional and District Level
Problems of Facilitation.
Conclusion and Policy Implication.

Chapter 10. Unique Contributions of this Study

Introduction
Comparison of the Findings with other Existing KDP/PNPM Rural Studies
Comparison of the Findings with other Existing CDD Studies
Conclusion and Policy Implication

Chapter 11. Conclusion and Policy Recommendation

Conclusion Policy Recommendation

序章では、研究の目的と方法が示され、研究の意義を明らかにしたうえで、研究方法とデータについて述べている。

第1章では、関連する既存研究の概観を踏まえて研究の目的と意義が示され、研究の主題と方法、情報収集と分析視点、が提示される。さらに、本論文の章別構成が掲げられる。

第2章では、関連既存研究の詳細なレビューがなされ、その中で、「開発」、「農村開発」、「地域住民主導型プログラム (Community-Driven Development (CDD) programs)」、「参加」、「エンパワーメント」、「ファシリテーション」、など主要概念が検討される。次いで、本論文での中心をなす仮説として、「パトロン・クライアント関係に基づく地方有力者支配」という視点が提示される。

第3章では、調査研究対象とした KDP/PNPM-Rural プログラムの設計・実施の両面にわたる全体像が示されるとともに、現地調査対象である3つの農村について、地勢、人口、社会経済状況、地方行政体制、各面での情報が提供される。

第4章では、KDP/PNPM-Rural プログラムに先行する「地域ベース開発プログラム (Community-Based Development (CBD) programs)」である IDT と P3DT の2つのプログラムが取り上げられ、概観が与えられる。次いで、これらと KDP/PNPM-Rural プログラムとの詳細な比較検討がなされ、継続と革新の両面が確認される。さらに、活動実績、経済効果、ガバナンス、の各面につき KDP/PNPM-Rural プログラムの評価結果が紹介される。

第5章では、インドネシアにおいて「エンパワーメント」の訳語として用いられる“*pemberdayaan*” が概念としてどのように理解され政策用語として用いられているかにつき、世界銀行など英語圏での“*empowerment*”の使用法と対比して検討し、地域における力関係に注意を向けず調和が強調されるという特徴を明らかにする。

第6章では、KDP/PNPM-Rural プログラムの設計につき詳細かつ体系立った記述がなされる。計画段階については、意思決定過程の各段階につき関与する主体が明示され各主体に想定されている役割が述べられる。実施段階については、インフラストラクチャーの整備とマイクロクレジットの提供それぞれの運営原則が示され、関与する主体が明示され各主体に想定されている役割が述べられる。

第7章では、KDP/PNPM-Rural プログラムについての村民の知識と見解、そして関与の様態につき、3つの村落での現地調査に基づく知見が提示される。ここでは、村民にとっては、このプログラムの CDD としての新たな性格は理解されておらず、自身の利得となることのみが関心事である、ことが明らかにされた。

第8章では、KDP/PNPM-Rural プログラムの計画と実施の両段階に設計と実際との間の不整合が確認される。すなわち、「住民主導」を実現するための手続きが形骸化され、村長など地方有力者による決定の下で利益誘導がなされた、ことが明らかにされる。これにつき、「パトロン・クライアント関係に基づく地方有力者支配」という理論仮説の視点からの解明

がなされる。本章での事実確認と論考は、既存文献にない独自の貢献として特筆に値する。

第9章では、前章で確認され論じられた設計と実際との間の不整合につき、「地方有力者支配と対抗力」という一般論の枠組に即して、中央ジャワでの地方政治の各層での住民の均質度/異質度とそれぞれの層で働く力関係が確認・検討され、また対抗力としての外部者（ファシリテーター）の役割を阻害する諸要因が確認される。ここでの論考は、実際に即した理解の提示として重要であるとともに、上記の一般論への貢献をもなしている。

第10章では、上記のような本論文の独自の貢献が、KDP/PNPM-Rural プログラムについての既存文献との対比において、そしてさらに、CDD プログラム全般についての既存文献との対比において、提示される。

第11章では、各章で得られた知見を要約して結論が示され、「住民主導」の実を上げるための方針として、最小の地域単位である近隣集団の役割を導入することを主眼とする政策提言がなされる。

IV 総合評価

1. 論文提出から審査までの経緯

Bagus Pambudi 氏は、大学院国際協力学研究科国際開発専攻の博士後期課程に在籍しており、学内発表会での発表（2018年10月20日）、『国際協力学研究科紀要』（第17巻1号、2017年12月 査読あり）と専門学術誌である *Journal of International Development Studies* (Vol. 12、2019年3月 査読あり)での論文公刊など、課程博士として求められる要件を満たしている。

紀要掲載論文“Implementation of National Community Empowerment Empowerment Program in Rural Areas (PNPM-RURAL) : A Study in Sidayu Village, Centrall Java Province, Indonesia”では、本論文第7章で報告されている内容の一部が報告されている。

学術誌掲載論文“Contexts and Forms of Elite Capture in a Community-Driven Development Program: Case Study of Three Villages in Indonesia”では、本論文第8章の根幹をなす内容のが報告されている。

Pambudi 氏は、2019年3月12日に大学院に論文を提出し、博士号取得の申請を行った。研究科では、藤本耕士客員教授を主査、佐原隆幸教授、吉野文雄教授を副査、とする受理審査委員会を編成し、審査が行われた。受理審査委員会の審査結果は、2019年4月27日の研究科委員会で報告され、同委員会において受理が了承された。Pambudi 氏は、受理審査委員会で指摘された修正意見を踏まえ修正した論文を2019年5月15日に提出し、本審査の申請を行った。本審査委員会は、柳原 透客員教授を主査とし、藤本耕士客員教授、佐原隆幸教授、吉野文雄教授を副査、として編成された。修正箇所の確認を中心として検討が進められ、2019年6月11日に口頭審査を実施した。

2. 審査所見

口頭審査では、Pambudi 氏による論文の概要と到達点の説明と論文の限界と残る研究課題の提示を受け、質疑応答が行われた。とりわけ、論文の限界について、政策提言が実行可能であるかどうかの検討がなされていないことが指摘された。

審査委員は、論文の目的と意義、研究方法と情報の収集・分析、論文の構成と内容、そしてその独自の貢献について高く評価し、また、受理審査の際に指摘された問題が適切に修正されていることを確認した。指摘事項とそれに対する応答を下に記す。

Comments and Responses

(C): Comment

(R): Response

1. (C) References have to be added/increased at least, say 200
(R) References have been added to about 200. The reference includes “indirect” sources which are not quoted in the main text but serve as reading materials.
2. (C) Quite a number of corresponding references quoted in the main text are missing (are not listed)
(R) The missing references have been listed.
3. (C) Do not use different terms for same word such as figure, graph etc.
(R) Use only the term “figure” consistently especially in chapter 7 discussing result of questionnaire.
4. (C) The word “writer” should be changed into “author” throughout the dissertation
(R) Change to “author” throughout document.
5. (C) Uniform translation of Indonesia language/terms into English throughout the dissertation
(R) Fixed some inconsistent translations. For example, LPMD referred only as Village Development Committee. The other translation of LPMD as Community Empowerment has been changed.
6. (C) English grammar: Use the passive voice more often and “past participle” more wisely, use the simple rather than complex sentence.
(R) A number of “overload” (confusing) complex sentences have been revised into either simple sentence or easily understood complex sentences.
Passive voice and past participle sentence have been properly added as revision to document.
7. (C) Never “copy and paste” various figures such as Figure 1.1, Figure 3.1, Figure 8.1, Figure, Figure 8.2, Figure 8.3, Figure 8.4, so on should be re-written by excel.
Figure 8.3, in particular, should be divided into two, a figure covering from 1 to 7 and a figure covering 8 to 10.
(R) The “copy and paste” figures in figure 3.1, figure 3.2, figure 9.2 have been re-written. The other figures such as figure 1.1, figure 8.1, figure 8.2, figure 8.4 are not “copy and paste” figures but a cropped image of excel file.
Figure 8.3 has been changed and divided into 2 figures, figure 8.3 covers planning stage and figure 8.4 covers implementation stage
8. (C) Use the term “institution” or “organization” uniformly. Do not mix them up.
(R) Use only term “organization” as suggested. For example, Organizational Structure of PNPM Rural, Organizational Chart of NMC, Organizational Chart of RMC
9. (C) At the end of each chapter, state clearly the authors’ position/own view (which would collectively form “conclusion of the dissertation: final chapter” in the end). The dissertation’s final objective is to design an improved/reformed PNPM Rural program. This point has to kept in mind all the time.
(R) A major revision on conclusion of each chapter and general conclusion in Chapter 11 to make more consistent and clearer on the author’s position.

A proposed design of planning stage is presented in chapter 11. For, implementation stage, the author argues that improvements should be made by strengthen the role of project actors such as village facilitator, monitoring team, and maintenance team without changes on implementation design.

10. (C) The new/reformed/improved design of PNPM could be described from at least four angles: regulation, infrastructure and micro-finance, poverty treatment and facilitator training/upbringing.

(R) The proposed design is presented on chapter 11, but explanation on poverty treatment, facilitator upbringing, infrastructure and micro-finance, and regulation can be found not only in chapter 11.

11. (C) Check Saemaul Movement of Korea which was excersiced during early 1990s with the help of Korean advisor for Indonesia village (community) development. This experience may teach some lesson in dissertation writing. For example, an approach which makes the most use of existing Indonesia system.

(R) I have never encountered any document either from Gol or the World Bank that relates Saemaul Movement with CDD program in Indonesia. However, as I read two articles on Saemaul Movement in Korea (Mike Douglas (2013) and ADB (2012)), I found important similarities between Saemaul and KDP/PNPM Rural such as the separation of program mechanism from the existing development process and newly formed community-based organizations as project actors.

I believe comparison between KDP/PNPM Rural and CDD programs in other countries is useful and should be agenda for future research.

12. (C)Throughout the dissertation, no statements are available concerning impact/result/performance of various projects and programs quoted in the dissertation. The author should look into this aspect in terms of “cost performance” and/or “value for money (fund)”. After all, success or failure of the program/project is usually judged on the basis of the “cost vs performance” criterion.

(R) Impact evaluation of KDP/PNPM Rural is provided in section 4.5 based on previous studies. It covers evaluation on economic impact (including poverty) and good governance. In general, the program has positive impact on economic parameter but has a weak contribution on good governance in the village.

13. (C) As for the questionnaire survey, Table 1.2 should be re-arranged in such a way as “each intermediate question consists of a few/several specific questions”. Besides, add another column in which actors concerned (e.g who are asked?) should be indicated

(R) Table 1.2 has been modified to make clear distinction of main, intermediate and specific questions. Column of “source of information” is added to the table.

14. (C) Sen’s argument (2.2.1 on page 20) should be followed by a discussion on how it developed towards the community -based development program design. The sub-section 2.2.1 cannot be completed by the Sen’s discussion alone. In this connection, please refer to the attached to pieces of paper and study Uphoff’s and Chamber’s design/model. It is recommended that the author reads D. Hulme (source) paper listed at the footnote of the attached papers.

(R) Hulme’s arguments have been added to chapter 2 under discussion of CDD. The hybrid models of Uphoff and Chamber are also presented in this chapter. In general, Hulme’s identification of alternative of planning is meaningful for the dissertation. The author has then argued that CDD program can be classified into hybrid model with the roots of economic and political analysis.

15. (C) A contradiction in relation to “existing/regular approach vs by-pass approach”: in the discussion of CDD the World Bank, the author advocates the existing/regular approach, while he advocates the by-pass approach in the discussion of PNPM Rural. This contradiction should be clarified and it may be suggested that the author tries to find a more practical and realistic approach, e.g. an improved/reformed approach of the existing one with introduction of factors of the by-pass approach. A kind of the author’s own approach?

(R) Clarification has been made and presented in only Chapter 11. The author advocates existing/regular approach on hamlet and neighborhood level because no finding on elite domination in these levels. However, segregation on village level is still necessary due

- to strong domination of village head on this level.
Above argument is articulated in new proposed design.
16. (C) Profiles of Three Villagers: Describe the profile of three villages; Brayu, Sidayu and Juragan in terms of location, population, economy, social condition, development history with respect to, for instance, past community development program/project, and so forth.
(R) Map of Batang district indicates of the three villages has been added. General information about population, economy, social condition has been provided.
Regarding development history, as this study focuses on KDP/PNPM, I did not collect historical data during field research.
However, I agree that development history of individual villages may shed useful light to the understanding of the evolution of CDD programs on the grass-roots level.
17. (C) All the comparative discussion and analysis should be supported by Table of Comparison matrix. In other words, throughout dissertation, prepare a comparison table and explain/discuss/analyze in accordance with content of the comparison table.
(R) New matrixes of comparison have been added on Table 4.3, Table 4.4, Table 4.5, Table 6.1, Table 6.3, Table 6.4, Table 6.5, Table 6.6, Table 6.9, Table 6.10, Table 6.11, Table 8.1, Table 8.2, Table 10
18. (C) "Contents" and "Title of Each Chapter" should be consistent throughout the dissertation.
(R) Done.

3. 審査委員会結論

委員全員が一致して、学位申請者に対し、「博士 (国際開発)」の学位を授与するに値する、との判定を下した。

以 上